

昭和の南海地震体験談

氏名:蟹 万里子(かに まりこ)
生年月日:昭和 18 年 1 月 28 日
地震を体験した場所:田辺市
当時の家族状況:祖母、父、母、兄、妹

本人の希望により写真は掲載しておりません。

1) 地震発生時の状況

地震発生時、当時 3 歳で、生家は醤油屋を営んでいた。

父に、兄と共に抱かれて、家の裏庭の古い柿の大木に登り避難する、母は、妹(生後 80 日)を抱いて柿の木の上で避難。父母は「B29じゃ無いか」と思っていたらしい。

祖母は、地震発生と同時に、前の小学校に避難して無事。



左側看板ある家が当時の家
芳養町史より

2) 津波来襲時の状況

柿の木で津波遭遇、そのまま記憶無い(右写真・白線までが、潮位の跡)

父母は<地震=津波連想>なし、この土地の事知らなかった。

3) 家族の行動・被害

父は、濁流、津波に耐え切れず、二人の子供を離してしまった。父は、濁流の中、道挟んだ向かいの家の軒に掴まって、助かった。母も同様赤ん坊を離して仕舞い、他所の軒先にぶら下がって助かった。

兄は、近所の避難していた人が、避難から戻って、溝っこで溺死しているのを発見された。顔に内出血の跡があったらしい。妹は、家の溝っこで、躍起になって捜していた父によって発見、溺死。

私は、木に掴まって浮いていた記憶と、飛行機で、腰にロープ巻かれて吊るされて救助された記憶があるが、どこの誰に助けられたのかは不明。

次の記憶は、鉄道線路の上に何か敷物を敷いていて、そこに連れて行かれた時、戻った私を見た両親が、長男と末娘を亡くしたショックからか、あまり喜ばなかった。

4) 集落・周囲の被害

同じ町内では7人が溺死。

鉄道線路の前の家、基礎石残して全流出、近所の作業場、借家も基礎石残して流出。

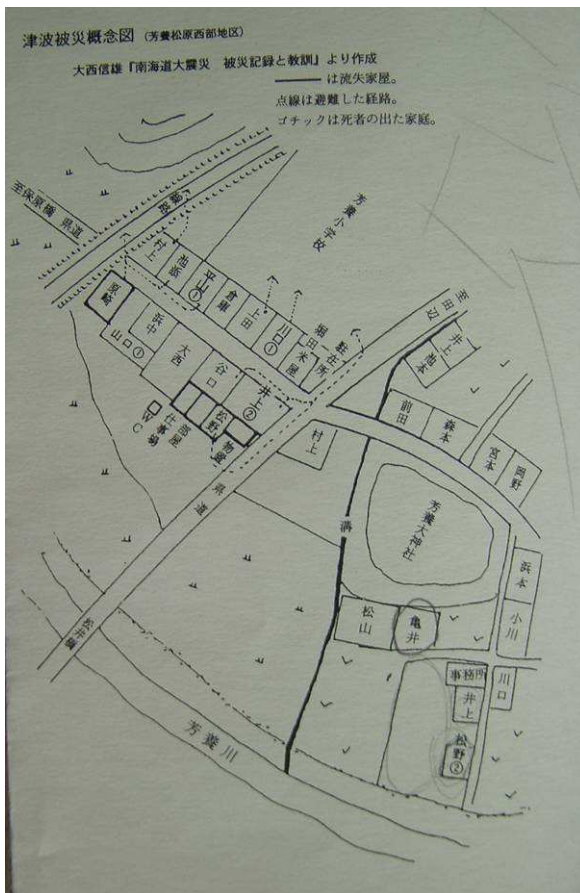
後は、ほとんど天井下20～30cm浸水、天井までの家もあった、自宅も同様。

前の家の、従姉19歳女性も溺死、21日屋頂海岸に打ち上げられていたのを発見された。他にも逃げる途中に濁流に飲まれ、亡くなった人がいる。

5) 地震・津波後の生活

父方の生家で生活したので、不便は無かった。

片付けは父母がしたのだろう。記憶は無い。



津波被災概念図

大西 信雄氏

「南海道大震災

被災記録と教訓」より

掲載

→斜めに走る県道(今は国道)の井上
②とある家、角地に住んでいた。

左上斜めに走る(鉄道)線路に父母が
避難した、祖母は、右上の小学校に避
難した。